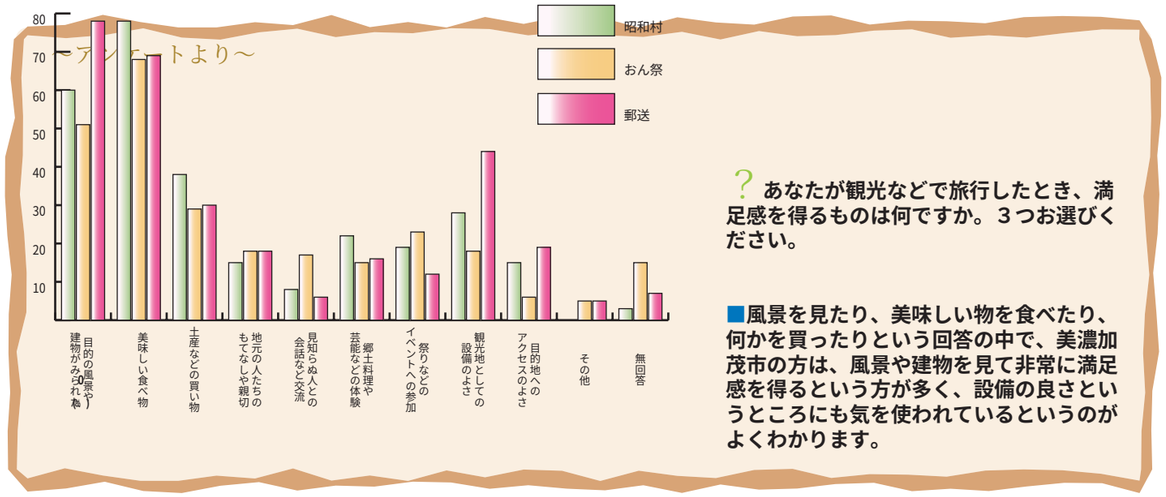


？ あなたが観光などで旅行したとき、満足感を得るものは何ですか。３つお選びください。

■風景を見たり、美味しい物を食べたり、何かを買ったりという回答の中で、美濃加茂市の方は、風景や建物を見て非常に満足感を得るという方が多く、設備の良さというところにも気を使われているというのがよくわかります。

～次のような基本コンセプトに従って、計画が進んでいます

中山道太田宿全体開発
（中山道会館及びその街並みを中心とし、日本ライン、周辺の自然環境、神社仏閣、名所旧跡までを視野に入れた広域での開発を指す）

↓

中核施設としての開発（点）
中山道会館
（今回計画の中山道会館はその中核を成す施設として中山道太田宿全体開発のコンセプトの下に本施設自身明確でインパクトのある独自のコンセプトを持って展開されるものでなければならない）

↓

隣接地区＆日本ライン下りとのつながり（線）

↓

自然環境、神社仏閣などまでを含む周辺開発（面）

KEY　CONCEPT　（全体開発）

Yedo ～えど～

ここで創出したYedo とは江戸時代に五街道のひとつに数えられた中山道の中でも大きな力を誇った太田宿を今に伝えるという意味を含んだ「江戸時代の宿場まち」という意味を持つ『Yedo 』である。
従ってその時代が持つ雰囲気を今に伝えると同時に、未来へ脈々と行き続けていく江戸時代への想いをここに創出していこうとするものである。

CONCEPT　（中山道会館）

川のある宿場～中山道太田宿～

上記にあるKEY　CONCEPT　の中で創出した「江戸時代の宿場まち」の中でも、中山道三大難所である川の渡しを持つという特筆すべきポイントを持つ太田宿を来訪者に体感いただき、往時の雰囲気を知る中で現代の太田宿の活気と様相をアピールしていくための展開のポイントとなるものである。

中山道会館

川のある宿場～中山道太田宿～

前記コンセプトの下、本施設に持たせる機能は以下のようなものでなくてはならない。

現代太田宿に親しむ
・市の開催
　中山道市、美濃十六宿市、太田宿市など大小様々な規模の市の開催によって、来訪者に現代太田宿に十分に親しんでいただく

江戸太田宿を体感する
・美濃十六宿における太田宿
・宿場町（太田宿）の様相再現
・木曽川渡りの体感
・姫街道の再現

今昔太田宿のゆかりを知る
・ゆかりの人物紹介
　この地で生誕したり、この地を終生の地とした人物の紹介及び企画イベント
・太田宿を通り過ぎた人物紹介
　この宿場を通った著名人たちの紹介

発行日　平成16 年11 月26 日
発　行　中山道太田宿ワークショップ
事務局　美濃加茂市　商工観光課　TE L 0 574-25-2111　（内線262 ）　FAX　0 574-25-3917

かつての太田宿の賑わいを

中山道は69次。そして江戸の日本橋から数えて52番目が、ここ太田宿です。太田宿は「朱曽のかけはし、太田の渡し、碓氷峠がなくばよい」と詠われたように木曽川を渡る中山道の三大難所の一つでした。それゆえ交通の要所となり多くの人々が行き交う文化栄える宿場となりました。

しかし、残念ながら今は賑わいは少なくなりました。そんななか、地元の人々はなんとかこの歴史と由緒のある街を活性化させたいと20年以上前から議論を闘わせ、また活動もしてきました。

どんな（仮称）中山道会館なってほしい？

20年前は、「中山道歴史資料館」として中山道のことがわかる大規模な資料館を太田宿に作ろうという構想でした。2003年に、県が美濃加茂市に日本昭和村をオープンすると、その人気が高まりました。それにともなって、昭和村を訪れる観光客が立ち寄る、観光としての複合施設を太田宿にも作って、日本ラインの魅力を引き出そうとす考えも出てきました。

また、中山道の宿場町としてのよさを次の世代にも受け継いでいってもらえるような地域コミュニティの考えも出てきました。

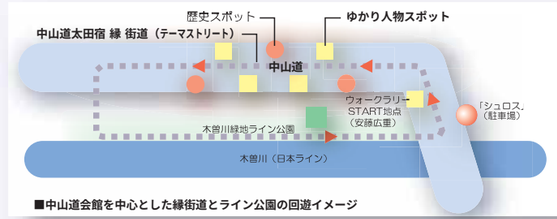
こうした中、美濃加茂市の3つの団体が中心となって、中山道会館建設推進協議会が生まれ、（仮称）中山道会館を作って活性化の拠点にしていきたいと提言書が出されました。市では、それを受けて（仮称）中山道会館建設基本計画を策定に向けて、具体的な意見や現状について、検討することとなりました。

何ごとも、参加する人どうしそれぞれの認識がちがっていてはいいものができません。「ええっ。いまさら？」と少し面倒なような気もしますが、（仮称）中山道会館をどんな施設にしたいのか、どんな機能をもたせたいのか、そして何のために、何をしたいがために作るのかを明らかにし、気持ちを一つにしていく行程が「コンセプトの検討」です。

■地域活性化に向けての多段階構想

●ステップ１

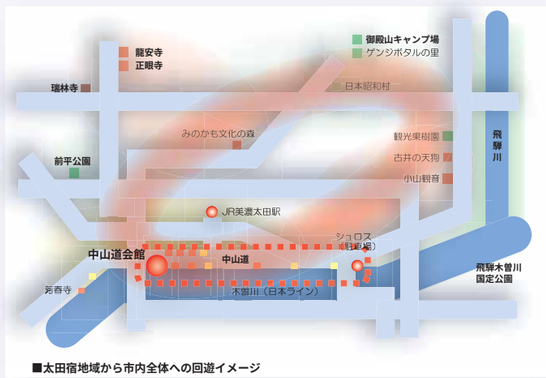
点から線への展開
『中山道太田宿 縁(ゆかり)街道』創出



■中山道会館を中心とした縁街道とライン公園の回遊イメージ

●ステップ２

線から面への広がり
『中山道太田宿 縁(ゆかり)ネットワーク』構築



■太田宿地域から市内全体への回遊イメージ

（仮称）中山道館　建設基本計画策定まで

地元の有志たちから構想が持ち上がる

「中山道６９次歴史資料館を建てようや」
「子どもの世代が跡を継いでくれるようにしたい」
「日本昭和村の観光客を太田宿にも呼ぼうや」
「それには、なにか拠点になる場が必要だ」

平成15年3月25日

中山道会館建設推進協議会（以下、「協議会」）が提言書提出

・活性化の拠点として（仮称）中山道会館が欲しいのです。（協議会）
その後も協議会のメンバーたちは「小松屋」に集まって、話し合いを続ける

平成16年6月7日会議

（仮称）中山道会館建設基本計画策定業務が始動

・市民とともにつくりあげるプロセスを重視する（商工観光課）

6月11日会議

・「かわ・みち・まちの宿」と「交流・文化・観光」を採り入れたコンセプトが必要だ。川と密着した暮らしをしていたことも振り返らんと。（協議会）
・「旅人を迎える場所づくり、人づくり、ものづくり」が課題になるだろう。（商工観光課）

現地調査のようす

7月2日　第1回ワークショップ

基調講演～愛知学泉大学　内田州昭教授

・まちおこしではなく、“まちそだて”なのです。
・人は見つめられると美しくなる、それは町も同じです。
・観光とは、“光を観る”なのですね。光探しをしましょうよ。（内田教授）

6月19日
中山道全国協議会役員会
太田宿学びの講座

8月3日　第2回ワークショップ

（仮称）中山道会館が、観光地にある建物としてどのような機能を備えたものになってほしいかを美濃加茂市民（郵送）とおん祭MINOKAMO　、日本昭和村の来訪者の３種類にわけたアンケートについて内容を検討しました。

・市民でも太田宿を訪れたことのない人もいます。太田宿にどれだけ意識があるのかも知りたい（協議会）
・太田宿は観光（まちづくり）にふさわしい場所と思いますか？の質問はぜひ入れたい（内田教授）

8月14日、21日　アンケート実施

・日本昭和村　サンプル数249　件
・おん祭MINOKAMO　サンプル数79　件
・上旬から郵送でも実施（～9月6日まで）

9月7日　第3回ワークショップ

ヒアリング「光探し」～観光案内ボランティア、観光係、地域住民

・観光客を受け入れる気持ちや体制がもっと必要なんではないやろか（観光ボランティア）
・休憩する場所やトイレが欲しい（観光ボランティア）

9月26日　第4回ワークショップ

ＫＪ法で（仮称）中山道会館について「イベント」「物販」「飲食」「その他」の項目に分け、協議会や商工観光課の全員がそれぞれのイメージや考えを出し合ってみた。コンセプトの再確認へ進む。